

事務事業名	広報モニター会議事務			担当	総務部 秘書課 広報広聴係		
政策名	F	市民の知恵と夢で拓くみんなのまちづくり			電話番号	83-8100	
施策名	3	開かれた市政の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	真岡市広報モニター会議設置要綱				<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成13 年度～）		
予算科目	1. 一般会計	2. 総務費	1. 総務管理費		3. 広報費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）	
事業概要	市民10人の委員に、年2回、広報紙の内容や今後取り組むべき内容等について意見を出してもらい、より多くの市民に読んでもらえるような広報紙づくりを行う。平成16年度から毎月の広報紙について気がついた点を郵送で送ってもらうようにした。（昭和57年度から開催していた広報委員会を廃止し、新しくモニター会議を設置した）【委員】市指名5名（新聞記者、ケーブルテレビ社員、介護関係の方等）、公募委員5名						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 22年度実績 10月と3月に会議を開催し、広報紙に掲載すべき内容やわかりやすい広報紙づくりのための意見や感想を聞いている。毎月の広報紙の内容について3カ月ごとに郵送で意見を聞いている。 23年度計画 平成22年度と同じ	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移								
	名称		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
	ア	会議開催回数	回	2	2	2	2	2	
	イ	委員から出された意見数、感想数	件	173	219	267	232	240	
	ウ エ オ								
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 広報紙	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移								
	名称		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
	ア	広報紙の配布部数	部	19,000	19,000	24,400	24,400	24,500	
	イ	委員数	人	10	10	10	10	10	
	ウ エ オ								
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 広報紙のわかりやすい紙面づくりに反映させる。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移								
	名称		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
	ア	広報紙作成編集に参考となった意見数	件			225	197	170	
	イ	新企画や紙面作りに取り入れられた意見数	件	5	5	5	7	10	
	ウ エ オ								
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 情報の共有化による開かれた市政の推進	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移								
	名称		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
	ア	広報紙を読んでいる市民の割合	%	83	83	88	83	88	
	イ ウ エ オ								
(2) 総事業費の推移									
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0	0
			一般財源	千円	100	100	100	100	0
	事業費計(A)			千円	100	100	100	100	0
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	0	
		延べ業務時間	時間	14	16	16	16	0	
		人件費計(B)	千円	59	67	65	68	0	
		トータルコスト(A)+(B)			千円	159	167	165	168

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	市民の意見を聞き、読んでもらえる広報紙を作り、市の情報を市民に知ってもらうため。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	平成15年度から委員の半分の5名を公募した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 委員から意見を聞き、市民の知りたい情報を掲載することで、読んでもらえる広報紙作りを行い、市の情報の共有化を図り、市民参加による開かれた市政を実現するため。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 広報紙作りにより市民の意見を聞くため。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 会議と手紙で意見を取り入れている。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 各界各層の代表者などから、会議と手紙で意見を取り入れている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 各界各層からの意見を取り入れる機会が少なくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない 類似事業はない。
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 年2回開催する会議の委員への謝礼である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 会議を開催する人件費である。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> : 目的妥当性 <input type="checkbox"/> : 有効性 <input type="checkbox"/> : 効率性 <input type="checkbox"/> : 公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							